

はじめに

小田原市緑の基本計画の改訂にあたって

小田原市は、酒匂川の流れる足柄平野を中心に、東は曾我丘陵に、西は箱根外輪山、南は相模湾と、豊かな水と緑の自然環境に生まれ、戦国時代には小田原城を中心とする城下町、江戸時代には東海道屈指の宿場町、明治期には政財界人や文化人の別荘・居住地として、現在は首都圏西部の中核都市として発展を続けてまいりました。



本市の緑は、こうした都市の発展のなかで、開発等による減少が進んできましたが、近年では、地球温暖化対策や生物多様性の保全、自然災害の防止、風格ある景観形成など、緑の果たす様々な機能や役割が注目され、その重要性はますます大きくなっています。

本市では、平成8年に策定した緑の基本計画に基づき緑化を進めてきました。策定から20年が経過するなかで、都市公園や身近な緑をめぐる市民意識・要望の変遷、生活空間に近いところでの更なる緑化推進のニーズの高まり、小田原の豊かな自然環境を更に育てる必要性、さらには交流人口の拡大に花や緑が果たす役割の重要性などに鑑み、小田原の緑の把握と、今後の緑の質的量的な拡充、また、それらを将来的に持続可能なものとしていくためのプランへと大幅に書き換えました。

私たちの暮らしに潤いと癒しを与え、小田原を訪れる方々をもてなし、様々ないのちの拠り所となる緑を、市民や事業者の皆様とより一層連携して、増やし、守っていきたいと考えておりますので、今後ともご協力をお願いします。

終わりに、本計画の改訂にあたり、貴重なご意見・ご提案をいただきました市民の皆様をはじめ、多大なご尽力をいただきました「小田原市緑の基本計画改訂懇談会」の皆様には、心から感謝申し上げます。

平成28年3月

小田原市長

加藤 憲一